

平成 2 4 年度 指定管理業務評価結果書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	中島病院旧本館（呼称：城西浪漫館）
(2) 指定管理者	所在地 岡山市北区表町一丁目 1 - 4 0 名 称 株式会社総合通信社 代表者 代表取締役 延原 誠
(3) 公の施設の所管部署	都市建設部歴史まちづくり推進室
(4) 指定期間	平成 2 4 年 4 月 1 日 ～ 平成 2 7 年 3 月 3 1 日
(5) 評価対象期間	平成 2 4 年 4 月 1 日 ～ 平成 2 5 年 3 月 3 1 日

2 施設の利用状況

(1) 利用者数等	平成 2 4 年度実績	対 2 3 年度	平成 2 3 年度実績	対 2 2 年度	平成 2 2 年度実績
	来館者数 7,324 人 (男性 3,371 人) (女性 3,953 人) 喫茶利用者数 4,706 人	-410 人 -59 人 -351 人 231 人	来館者数 7,734 人 (男性 3,430 人) (女性 4,304 人) 喫茶利用者数 4,475 人	2,306 人 1,009 人 1,297 人 1,407 人	来館者数 5,428 人 (男性 2,421 人) (女性 3,007 人) 喫茶利用者数 3,068 人
(2) 事業の内容	開館業務、貸館業務、喫茶室運営業務、自主事業 [河田雅史写真展、今村信悟ライブ、てがき友禅展示会、江戸一目図屏風ハガキ販売、在りし日の津山の風景展示、宇田川榕菴御命日城西まち歩き、江戸一目図屏風展、夏休みキッズフリマ、中島病院展、津山のあやかし物語展、秋のスイーツとアート展、榕菴珈琲無料試飲会、日本の祭りと津山まつり展、津山城西まるごと博物館フェア(レトロ市場・小学生絵画展)、婚活X'masパーティー、クリスマスの歴史展、甘酒無料配布、嵯峨御流鶴山司所いけばな展、植月英俊展、婚活バレンタインin城西浪漫館、希望ヶ丘ホスピタルの仲間たちによるロールアート展、春休みキッズフリマ など]				

3 収支の状況

(1) 収 入	平成 2 4 年度実績	対 2 3 年度	平成 2 3 年度実績	対 2 2 年度	平成 2 2 年度実績
(指定管理者の収入)	総 額 7,290 千円	-2,132 千円	総 額 9,422 千円	-48 千円	総 額 9,470 千円
内 訳	内 訳		内 訳		内 訳
指定管理料	2,400 千円	千円	2,400 千円	-800 千円	3,200 千円
利用料金	43 千円	-5 千円	48 千円	千円	48 千円
喫茶売上	2,427 千円	352 千円	2,075 千円	963 千円	1,112 千円
自主事業 (参加者負担金)	244 千円	169 千円	75 千円	51 千円	24 千円
雑収入 (物販ほか)	901 千円	883 千円	18 千円	18 千円	千円
自社負担金	1,275 千円	-3,531 千円	4,806 千円	-280 千円	5,086 千円
(2) 支 出	平成 2 4 年度実績	対 2 3 年度	平成 2 3 年度実績	対 2 2 年度	平成 2 2 年度実績
(指定管理者の支出)	総 額 7,290 千円	-2,132 千円	総 額 9,422 千円	-48 千円	総 額 9,470 千円
内 訳	内 訳		内 訳		内 訳
人件費	5,293 千円	-1,197 千円	6,490 千円	-581 千円	7,071 千円
消耗費	194 千円	16 千円	178 千円	57 千円	121 千円
光熱水費	361 千円	-1 千円	362 千円	-24 千円	386 千円
通信費	120 千円	-18 千円	138 千円	-7 千円	145 千円
警備委託	101 千円	千円	101 千円	千円	101 千円
備品費	155 千円	5 千円	150 千円	123 千円	27 千円
研修費	80 千円	千円	80 千円	67 千円	13 千円
会費等	24 千円	-14 千円	38 千円	6 千円	32 千円
喫茶仕入 (4 月 ~ 3 月)	842 千円	182 千円	660 千円	298 千円	362 千円
自主事業費	120 千円	20 千円	100 千円	13 千円	87 千円
その他 (サバ - 保守管理等)	千円	-1,125 千円	1,125 千円	千円	1,125 千円

4 総合評価結果

(1) アンケート調査等	H25 年 2 月 1 日 ~ H25 年 2 月 28 日にアンケート調査を実施し、48 名から回答。
(2) 指定管理者の自己評価	地域の情報発信拠点施設として地域の歴史と文化に重点を置いた展示企画を立て、特に地域の人にスポットを当てる自主事業などに積極的に取り組んだ。その結果、津山郷土博物館、津山洋学資料館などとも連携を行い展示の充実が図れた。年間の入館者数は微減したが、喫茶利用者は前年度比増となり喫茶を利用した企画も行ったことから売上増につながった。NPO 法人とも連携しコーヒーマスター・ギフト商品を就労継続支援施設で製作し、館内物販という新たな収益を得た。また、経費削減に積極的に取り組み、本社負担金（赤字）を前年比 7 割減とすることができた。次年度については単年度黒字化を目標に地域に根ざした商品開発等を行い、館内物販を強化したい。
(3) 市の評価	毎月特色ある自主事業に積極的に取り組み、新聞等のメディアにも度々取り上げられるなど、施設の知名度の向上に大きく貢献している。キッズフリマの開催や地域行事「城西まるごと博物館フェア」の参加など地域と密着したイベントの開催は、地域に対する施設の利用促進を図る上でも効果があり、また、NPO 法人や洋学資料館など公共機関との連携などが十分図られていることは、大変評価でき今後とも継続していただきたい。 利用者の意見収集に関しては、ホームページ等を活用するなど恒常的な意見収集の工夫をお願いしたい。収支については前年度と比較し、喫茶売上・物販収入の増、人件費の削減などにより大幅に改善され、大変努力をしていることはうかがえるが、自己評価においても単年度黒字化を目標としており、運営における更なる効率化と改善に期待したい。 なお、H25 年 5 月 30 日に開催された審査委員会においても、業務内容に関しておおむね良好である旨の審査結果であった。